

令和5年度

《第1回総合入試》

国語

時間50分，100点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。
記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも回収します。

郁文館中学校

一次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

ここまで、どのようにして東京を「世界一夢あふれ、『ありがとう』が飛び交う都」にするかについて説明してきました。また経営者である私がなぜ政治について言及するのかといえば、今日日本にもっとも必要なのは、事業を行う人も、その事業の対象になる人も、ともに幸せにする「マネジメント力」であるからだと言いました。私はこうした経営のあり方―すなわち、その事業に関わる人たち全員が幸せの総和を最大にし、最大多数の最大幸福をもたらす経営を「ありがとう経営」と名づけています。この章では、私が経営者として二十六年にわたって追求してきた「ありがとう経営」について、より深く、具体的に説明したいと思います。

先に書きましたが、私は十歳のとき、最愛の母を病気で亡くしてしまいました。三十六歳という若さでおさない子供を残して生を閉じなくてはならなかった母の無念は、どれほどだったでしょう。私も身を引き裂かれんばかりの悲痛を味わいました。さらに半年後、今度は父の経営していた会社がA清算に追い込まれました。背負った借金の返済のために肅々と働く父の背中を見ながら、小学生ながらも「将来は社長になろう。社長になって母を喜ばせ、父の果たせなかった夢を代わりにかなえてやろう」と決意しました。このおさない志が人生最初の①夢の始まりだったのです。

高校生のとき、社長になるつもりだった私は最初、②大学に行こうとは思っていませんでした。大学に通う暇があるなら、先に社長になったほうが良いと考えていたからです。高校三年生の四月、三者面談（といっても、母は亡くなっていますし、父は会社をつぶして私の面倒を見ている時間がまったくなくなかったため、実際は先生と二人きりでした）で担任の先生に「どの大学に行くんだ」と問われて、「社長になりたいので、大学に行く意味はないと思います。経営の神様といわれる松下幸之助さんも小学校しか出ていないのだから、大学に行かなくても立派な社長になれるのではないですか」と打ち明けました。

すると先生は、

「（ア） a ）、おまえはリーダーシップがあるから社長になれるだろう。それで、何の社長をやるつもりだい」と聞きます。そこで初めて、自分が何の社長になるのかをまだ決めていなかったことに気がついたのです。

先生に「どんな社長が良いでしょうか」と相談したら、「俺は数学の教師なのだから、わかるわけがないだろう。だったら、何の社長になるのかを探すために、大学に行ってもいいのではないか」と言われたのです。

先生の言葉で、私も何の社長になるかを決めるために大学に行ってもいいと思い、当初の予定を変更して大学を受験することにしました。これまで受験勉強などしたことがないし、模擬試験も受けたことがなく、お金がないので予備校に通ったこともありませんでした。それでも大学に行くこと決めた後、一日平均三時間ずつ受験勉強をしたおかげで、どうにか現役で大学に合格しました。

大学に入っても、すぐには何の事業をやるのか思い浮かびませんでしたから、大学二年生になって、まず日本一周の旅をすることにしました。日本人の生活や文化の中から新しいビジネスを見つけてことができるのではないかと思ったのです。アルバイトで三十万円ほど貯めた後、友人と三人連れでキャンピングカーに乗り、四十五日間かけて日本中をくまなく回ったのですが、やりたい事業は見つかりませんでした。

（ア）大学三年生はボランティア活動に励んでいるうちに、またたく間に過ぎてしまいました。四年生になって来年はもう卒業だというとき、自分は人、物、金、情報という経営資源のどれも持っていないが、B強いていえば、人という要素だけならなんとかなる。人で大企業と戦っていきけるような事業はないだろうかと考えました。

そこで思いついたのが、ゲームづくりなどのコンピュータのソフト開発と外食産業でした。

どちらにしようかとかなり迷ったのですが、結論が出なかったので、今度はヨーロッパ、米国、アジアなどを旅して、世界がこれからどうなっていくのかを見極めれば、おのずと結論が出るのではないかと思えました。それで、③北半球一周旅行に行くことに決めたのです。（イ）北半球一周旅行に行くのなら、旅費を貯めなくてはなりません。大学四年生の春からアルバイトに精を出すことにしました。午前中は横浜の中華街で野菜の配達をして、午後は青果店でじゃがいもや玉ねぎの皮をむき、夕方からは家庭教師を五〜六軒かけ持ちしました。毎月十数万円貯金することができ、八カ月かけて百万円の資金を手にすることができました。そのお金を握りしめ、寝袋入りのリュックを背負って北半球の旅に出たのです。このとき、二十四歳で会社をつくることもすでに決意していました。

（ウ）アジアから入ってアフリカに抜け、東西南北のヨーロッパ、当時のソビエト連邦、そして大西洋を渡り、米国に行つて帰国するという旅程で、二カ月ほどかけて回った国は二十数カ国にもなりました。米国から帰国するときには、太平洋を直接渡ると航空運賃がものすごく高いので、米国からいったんイギリスのロンドンに戻り、そこから一番安い南回りの飛行機で日本に帰ったので、三十時間もかかってしまいました。

（エ）どの国の人間も同じようなことに感動するし、同じように人を愛するし、同じように自分の子どもはかわいい。考えてみれば、そんな当然のことでも、日本だけにいるとなかなか実感できないものです。今、仕事で世界中に行っていますが、米国企業との提携、シンガポールや香港への出店などが国内と同じように簡単にできるのも、やはりこの北半球一周旅行をしたことで、世界は小さくて、どの国の人間も同じ感情を持っているということが、身に染みてわかっているおかげだと思います。

（オ）北半球一周旅行のときは、自由主義圏のヨーロッパ諸国の経済はほとんど壊滅状態でした。ロンドン市庁舎前には失業者の数が表示されており、仕事を求める人たちのデモが頻発していました。デンマーク、ノルウェー、スウェーデンなどの国々は当時、ちょうど福祉国家を目指して国内の制度が変わりつつあったときで、税金がものすごく高く、夜八時以降はだれも街を歩いていないという状態でした。その後に訪れた社会主義国のハンガリーのほうが、まだ元気がよかったです。

社会主義国を訪れる前は、社会主義や共産主義のような社会にこそ、人類の幸せがあるのかもしれないと思っていました。国民が皆、

衣食住足りて、揺りかごから墓地まで安心して生活できるような社会が成り立っているのであれば、それは素晴らしいことではないだろうか。今はソ連が崩壊して、ロシアがその後継国家になっていますが、当時はまだ社会主義国の盟主としてソ連が強い力を持っており、自由主義圏の盟主である米国との間で冷戦が続いていました。第二次世界大戦後、米国とソ連という超大国がそれぞれの同盟国を率いて、直接的な軍事衝突をせずに経済や外交面で激しく対立していたのです。

そんな冷戦の中でソ連に行くというのは、やはり大変でした。自由主義諸国だけだと世界を見たことにはならないと考えたので、どうしてもソ連に行きたくて、ビザの申請をしたのですが、ビザを取るのに本当に苦労しました。ソ連に行った場合に自分がどこにいるかを常に示す、十五分刻みの行動予定表を出し、泊まるホテルも日本で予約しておかなければなりません。渡航手続きに苦労してやっとソ連に入っても、外国人は観光客をC装¹ったスパイではないかと疑われ、ガイドという名の監視役がつくのですが、私も例外ではありませんでした。今の北朝鮮と同じ状況だったのです。

④実際にソ連を訪れてみると、私の社会主義国に対する期待は、こっぱみじん²に打ち砕かれてしまいました。観光客が宿泊するホテルや観光名所だけは、外貨目当てでやたらと立派なのですが、街の中はまったく活気が感じられません。レニングラードやモスクワでは夜間外出が許されなかったもので、現地の人々の生の声を聞く機会もありませんでした。

キエフでようやく現地の若者から話を聞くことができましたが、彼はこう言いました。「働く場所を自分で選ぶことはできないし、働いても働かなくても賃金は同じだから、働かないほうが得だ。決まった日数以上、仕事を休むと処罰されるけれども、その範囲内でサボれるだけサボる」

ソ連の若者たちは職には就いていますが、一生懸命に働こうとはしません。職業選択の自由がなく、指定されたところでしか働けないうえに、働いても働かなくても給料が同じだから、だれでもいかにズル休みをするかということしか考えなくなるのです。私は心底がっかりし、ソ連は必ず崩壊すると確信しました。次に行った東欧の社会主義国でも、印象は同じでした。米ソの冷戦というのは、要するに人間が自由を求めると、あるいは平等を求めるとかという戦いだったのです。

自由か平等かといえば、私は平等よりも自由のほうがよいと思います。(b)、平等を選ぶと、不公平感が生まれないように、必ずもつとも怠惰な人にみんなが合わせるようになってしまうからです。その結果、だれもが働かなくなり、社会や国も元気を失っていきます。一方、自由を選ぶと、だれもが働けば働いただけお金を得られますから、もつともよく働く人を見習って働くようになり、社会や国にも活力が出てきます。当然のことながら、行きすぎた自由主義はダメです。あくまでも、弱者を救えるセーフティーネットを張った自由主義でなければなりません。その意味では、小泉・竹中路線は行きすぎていると思います。

予想どおり、ソ連は崩壊して社会主義を捨てました。北朝鮮の先行きにも、暗雲が漂っているように思います。北半球の旅では、人と人との間には差別があるということも強く実感しました。差別は、肌の色、出身地、主義主張、貧富の違いといったことから生まれます。(c)、某国のホテルに泊まったときに、ボーイに蹴っ飛ばされて追い出されている人を見ました。「何で追い出したのか」とボーイに聞くと、「あいつは住んでいる場所がよくないから」という返事でした。また、欧州のあるレストランでは、主人から「日本人か中国人か」と聞かれました。理由を尋ねたら、「うちは中国人を入れないことにしている」と言われ、本当に悲しい気持ちになったものです。

結局、⑤自分がどんな事業をしたらよいのかという回答はなかなか得られないまま、米国までやって来ました。ニューヨークのグリニッチ・ビレッジという学生街に行つて、あるライブハウスにぶらりと立ちよったときでした。私は衝撃的な体験をしたのです。二百人ほどしか入らないライブハウスでしたが、私はすぐに、その店が醸し出す、何ともいえない で温かい雰囲気 強く魅入られてしまいました。心地よい音楽が流れる中、みんなほろ酔い加減でおしゃべりや踊りを楽しんでいます。黒人と白人と一緒に語らいながらビールを飲んでいるかと思えば、ダンスフロアでは初老の男性が娘ほどの若い女性と踊っています。

酒と食事と音楽、人々の愉快そうな笑顔や笑い声。国籍や人種や年齢を超えて、みんなが分け隔てなく心から楽しんでいます。陽気で温かい満ち足りた空気。そこには幸福感があふれ、すべての客が喜びの中で時間と空間を共有していました。店の中は、まさに人種のるつぼで、これまで私が世界を旅する中で出会った人々が一堂に会しているような気がしました。その人たちが肩を組み、歌い、踊り、酒を飲んでいる光景を前にして、私の目からはいつしか涙がこぼれ落ちていました。

旅行中、世界には厳粛と人への差別があることを体験して暗い気持ちになっていましたが、そんな気持ちはいっぺんに吹き飛び、「人間っていいものだな。好きな人と一緒にいて、素敵な音楽が流れて、美味しい食べ物があつて、いいサービスがある。こんな場所にいると、だれもが素敵な顔をするんだな」——つくづくそう思ったのです。

同時に、このとき心の中に自分の一生を注ぎ込むのに足る夢が生まれました。「こんな雰囲気のお店を持って、多くの人たちを幸せな気持ちにできたら、どんなに素晴らしいだろう。自分もビジネスを起すなら、そんな仕事したい」

このグリニッチ・ビレッジのライブハウスこそ、今日につながる私の夢の出発点となったのです。この熱い思いを発端に、私と夢との追いかけつこが始まったわけです。

夢には限りがありません。夢を夢のまままで終わらせまい、何としても現実のものにしたいと追いかけて、やっとのことで追いついたと思ったら、またそれ以上の新しい夢があらわれてきます。すると⑥再びそれを追いかけて走り出していくのです。

(渡邊美樹 『東京を経営する』より)

※出題の都合上、省略・改編した箇所があります。

問一 線部A～Cの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 () 欄a～cに入る語として、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア たとえば イ なるほど ウ それでは エ なぜなら

問三 線部①「夢の始まり」とありますが、同じ意味の言葉を本文から五字で探し、書き抜いて答えなさい。

問四 線部②「大学に行こうとは思っていませんでした」とありますが、それを聞いた当時の担任の先生が勧めた内容としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア リーダーシップがある筆者へ、ソフト開発かあるいは外食産業の社長になるためにも大学に進学することを勧めた。
イ 大学へ行く暇があるなら社長になろうとした筆者へ、外食産業の社長になるためにも大学に進学することを勧めた。
ウ 何の社長になるのかまだ決めていなかった筆者へ、何の社長になるか決めるためにも大学に進学することを勧めた。
エ お金がないので大学には行かないと決めた筆者へ、何の社長になるか決めるためにも大学に進学することを勧めた。

問五 線部③「北半球一周旅行」とありますが、筆者の「北半球一周旅行」の様子としてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ニューヨークでぶらりと立ちよったライブハウスで見た店内の光景に、筆者は涙をこぼすほどに強く感動をした。
イ 北半球の旅路で、人と人との間には差別があるということも強く実感した筆者は、本当に悲しい気持ちになった。
ウ 今回の旅行を通して、筆者は、世界は小さく、どの国の人間も同じ感情を持っていることが身に染みて分かった。
エ 米国から帰国するときには、ヨーロッパ側から帰国すると航空運賃がものすごく高いので太平洋側から帰国した。

問六 線部④「実際にソ連を訪れてみると、私の社会主義国に対する期待は、こっぴみじんに打ち砕かれてしまいました」について、次の問題に答えなさい。

(1) 訪れる前はこう思っていましたか。本文の言葉を使って、四十字以内で答えなさい。なお、句読点や記号も一字に数えます。
(2) 訪れた後、筆者が感じた内容としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 過度な自由主義は禁物だが、自由主義は社会主義よりも国や国民に活力を生み出すことができるかと筆者は考えた。
イ キエフの次に行った東欧の社会主義国は、国民が自由を求めるのか平等を求めるのかという争いを起こしていた。
ウ 観光客が宿泊するホテルや観光名所が立派だが、街の中の活気が感じられないことを、夜のモスクワで確認した。
エ だれでもいかにズル休みをするかということしか考えなくなることから、ソ連では必ず革命が起こると確信した。

問七 線部⑤「自分がどんな事業をしたらよいのかという回答はなかなか得られない」とありますが、その時考えられる筆者の気持ちを説明した〈次の文〉の空欄にあてはまる言葉を本文から漢字二字で探し、書き抜いて答えなさい。
〈何の事業が人で大企業と戦っていいけるのか、() 二字 () が出ずに困っている気持ち。〉

問八 本文には、〈次の一文〉が抜けています。本文にもどす時、もっともふさわしい場所を、文中の(ア)～(オ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

問九 文中にある に入るもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 叙情的 イ 建設的 ウ 情熱的 エ 親和的

問十 線部⑥「再びそれを追いかけて走り出していく」とありますが、この時の筆者の気持ちを表す表現としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア キリキリ イ ワクワク ウ イライラ エ ハラハラ

問十一 次のア～オのうち、本文内容にふさわしいものには○を、間違っているものには×を選び、それぞれ答えなさい。
ア 小学生の時母を喜ばせて父の代わりに夢を叶えようと決意したことが、社長という筆者の夢の始まりであった。
イ 筆者は、小学校しか出ていない松下幸之助を超えるために、大学で何の社長になるのかを考えることを決めた。
ウ 大学に進学をした筆者は、大学二年生の時に日本一周をしたが、やりたい事業を見つけないことはできなかった。
エ 北半球一周旅行を経験したことで、筆者は今、国内と同じように世界中で仕事をすることが簡単にできている。
オ 本文は、筆者が夢を見つけたきっかけを通して今日の東京に足りないものは夢であることを具体的に述べている。

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

ちいさいユリちゃんが、あそんでいたこけしを ずらりと ねかせました。ぜんぶで 六ぼん。しろいタオルケットを かけ、じぶんも ころりと よこになりました。たたみに しいた でんきカーペットの うえなので ぜんたい あたたかです。

「ねんねんころいよ、おころいよ……」

ユリちゃんは きんじよの子です。

さつき わかいママと きて、わたしたちが はなしているあいだに めを とじてしまいました。そこで ママは、ユリちゃんをおいて 自転車で かいものになっています。もうすぐ かえってくるでしょう。

――①こもりうたを うたって、じぶんが ねむたくなつたのね。

わらいをこらえながら つくろいものをひろげたとき、わたしは ふいに Aオサナオサナいころかわいがっていた こけしの「ハッコちゃん」をおもいだしました。

ハッコちゃんに よく こもりうたをうたってねむらせたけど、あるとき、ちいさいわたしも ねむっていたことでしょう。

その地は 中国の大連でしたので、こけしそのもの めずらしかったように おもいます。

ハッコちゃんは、父が しゅっちょうで 日本にかえったおりの みやげのなかのひとつでした。

ですから、こどもべやのかぎりだなのうえに 市松いちぢまさんや セイヨーにんぎょうと はじめは なかよく 立っていたのではないでしょうか。

ただ わたしのきおくのハッコちゃんは 片目の墨すずみが ながれかけたような なきがおで、とつてもよごれた すがたばかりです。ちいさいわたしが あそんで、よごしてしまったのでしよう。

ほかのにんぎょうも だいすき。

市松いちぢまにんぎょうは、きれいなきものを着、ぴかぴかのおびを しめているし、セイヨーにんぎょうは ふわふわな白いながいようふくを着ていました。

それで、わたしは よごさないように、とめていねいに あつかっていました。

②でも、ハッコちゃんだけは、すきなように ごろんごろんと あそんでいたのです。

そのうち、よごれたハッコちゃんは、かぎりだにもどらなくなったのでしよう。

わたしたちは、いつも いっしょでした。

わたしが かぜをひくと、ハッコちゃんも かぜをひきました。

おにわの ちいさなすなばで、山をつくったり、川をつくって水をながしたりしました。

ともだちのうちに あそびにいくときは、かならず つれていきました。

空襲警報くうしゅうけいほうのサイレンが になると、ハッコちゃんといっしょに にわにほられた防空壕ぼうくうごうに はいりました。

そのころ、日本は、せんそうを していたので、てきのひこうきが とんできて、埠頭かどのほうに ばくだんを おとした そうです。でも、ちいさかったわたしは、おぼえていません。

おぼえているのは、防空壕ぼうくうごうのなかの しめった土のにおいと ハッコちゃんを だきながら、母に 身をBヨヨせていたこと だけです。あつい夏、せんそうが おわりました。

街まちでは、いろいろなことが おこり、あぶなくて そとにでられなくなりました。

ひとりっこのわたしは、ハッコちゃんといっしょに 絵をかいいたり、母に えほんをよんでもらったりしてすごしました。

やがて、治安が すこしずつよくなりました。

わたしたちは、みんな 日本に かせらなければなりません。
そのころ、大連には、二十万人いじょうの 日本人が くらしていたのです。

敗戦の日から わたしたちは ふた冬をすごしましたが、その二どめの冬は スチームボイラーをたく石炭がなくて ダルマストーブをつかいました。

大連の冬は、れいか十度まで さがることが あったからです。

※

そこで、売れないもの、売れなかったものを せいりしながら、父が そのストーブで もやしていたのです。
つくえ、いす、タンス、たな、琴などが たきぎになって、本とともに もえました。

わたしの市松さんや セイヨーにんぎょう、それに おひなさまは 売れましたが、なきがおのハッコちゃんは いつまでも いっしょにいました。

よかったね。

よかったね。

よかったよ。

よかったよ。

そして 引き揚げの日が 三日さきに きまったとき、母が そっと いいました。

「ハッコちゃんは、つれていけないのよ」

「えっ」

わたしは、ハッコちゃんをだきしめて 立ち上がると、へやのすみについて、うしろむきにCスワリました。

③わたしは、ちよつと なきました。

ええ、わかつていたのです。

父や母の、たいせつなものが、ストーブでもえるのを まいにち みていましたから。

いよいよ あした、しゅっぱつという日。

わたしは、ハッコちゃんのあたまを 何回も 何回も なでてから、父に わたしました。

そのあとのことは、なぜか おぼえていません。

ただ、ストーブのなかで、ごおつと、ほのおの音が した…… そのことだけ、よみがえってきます。

ユリちゃんは ぐっすり ねむってしまいました。

Dわたしは 電気カーペットのおんどを すこし さげてから、ユリちゃんに もうふを かけました。

ユリちゃんの ねがおは、こけしに にています。

④メンコ

メンコト

ナデラレテ

コケシハ マルコクナツタノサ

(あまんきみこ 『あるひ あのとき』より)
※出題の都合上、省略・改編した箇所があります。

問一

線部A～Cのカタカナを漢字に直して答えなさい。(ただし、楷書でいいねいに書くこと)

問二

線部D「わたしは」は主語です。この主語に対応する述語を次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。
ア すこし イ さげてから ウ ユリちゃんに エ もうふを オ かけました

問三

線部①「こもりうたを うたって、じぶんが ねむたくなつたのね」とありますが、この時のわたしの気持ちとして
もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア ユリちゃんが遊んでいたこけしを片付けるのはわたしであることから、まだまだ子どもだなと微笑ましく感じる気持ち。
イ ユリちゃんをおいて買い物に行ってしまった母親に対して、どうしてそんなひどいことができるのか疑問に思う気持ち。
ウ 並べたこけしにこもりうたを歌った結果、眠くなってしまったユリちゃんを見ておかしくも可愛らしいと感じる気持ち。
エ 自分が小さい時に可愛がっていた「ハッコちゃん」を思い出し、ユリちゃんと重ね合わせることで懐かしく思う気持ち。

問四

線部②「でも、ハッコちゃんだけは、すきなように ごろんごろんと あそんでいたのです」とありますが、この文から読み取れる内容としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 中国ではこけしは珍しいので、見せびらかすために、ハッコちゃんを持ち歩いていたことが読み取れる。
イ 片目の墨が流れたような泣き顔のハッコちゃんを、もう泣かせないために遊んでいることが読み取れる。
ウ ほかの人形も好きだが、ハッコちゃんは、その中でも特に仲良しで毎日一緒だったことが読み取れる。
エ ほかの人形をよごしたくないために、ハッコちゃんだけを転がして遊んでいたということが読み取れる。

問五

文中にある ※ に当てはまる言葉としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 父と母は、家のものを まいにちのように 売りにいっていました。
イ 父と母は、家のものを まいにち 世界中の 人々へ 売りました。
ウ 父と母は、ストーブで もやすものを まいにち買いに行きました。
エ 父と母は、ストーブで もやすために 石炭を 買いに行きました。

問六

線部「よかったね。よかったね。よかったよ。よかったよ。」とありますが、この文から読み取れる内容として
もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア ハッコちゃんは売れなかったことから、わたしとハッコちゃんが一緒にいることのできる互いの喜びが読み取れる。
イ ハッコちゃんは売れなかったことから、なぜ自分だけ売れないのかというハッコちゃんの隠れた苦悩が読み取れる。
ウ ハッコちゃん以外の人形が売られたことから、自分だけ残されるハッコちゃんに対するわたしの同情が読み取れる。
エ ハッコちゃん以外の人形が売られたことから、売れなくてもいいとハッコちゃんが強がっている姿勢が読み取れる。

問七

線部③「わたしは、ちよつと なきました」とありますが、泣いたのが「ちよつと」であった理由を、本文の言葉を
使って、三十字以内で答えなさい。なお、句読点や記号も一字に数えます。

問八

線部④「メンコメンコトナデラレテコケシハマルコクナツタノサ」とありますが、この文に込められた作者の
願いとしてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 電気カーペットによって思い出されたストーブの記憶を、二度と思い返したくないと思う願い。
イ 現在を生きる子ども達には、自分と同じ思いをしてほしくないという未来への平和を思う願い。
ウ ユリちゃんとこけしを重ね合わせ、家族で過ごした大連へ帰ってもう一度住みたいと思う願い。
エ 寝顔がこけしに似たユリちゃんとハッコちゃんを重ね合わせ、ずっと一緒にいたいと思う願い。

問九

次のア～キのうち、本文内容にふさわしいものには○を、間違っているものには×を選び、それぞれ答えなさい。
ア ユリちゃんが遊んでいたこけしをずらりと並べた時、わたしは小さかった当時の生活を思い出した。
イ ハッコちゃんは、わたしが大連に住んでいた時、父が日本への出張した後にお土産で買ってくれた。
ウ 大連で経験した戦争を鮮明に覚えているわたしは、今も空襲警報のサイレンが鳴ると恐怖を感じる。
エ 戦争が終わって治安が良くなったあと、大連にいた二十万人以上の日本人は帰国を余儀なくされた。
オ ハッコちゃんを日本に連れて行けないと分かったわたしは、潔くお父さんにハッコちゃんを渡した。
カ 本文は、ハッコちゃんが生きてるように描かれており、わたしの妹であるかのような描写が多い。
キ 本文に描かれている大連の生活から、多くの日本人が大連を故郷であると感じていることが分かる。